

## 木造聖観世音菩薩坐像（和田）

本像は、正岩寺境内の観音堂の本尊として安置され、毎年7月10日の開帳以外は秘仏とされ、「あかずの観音」と言われて、里人の信仰を集めてきた。

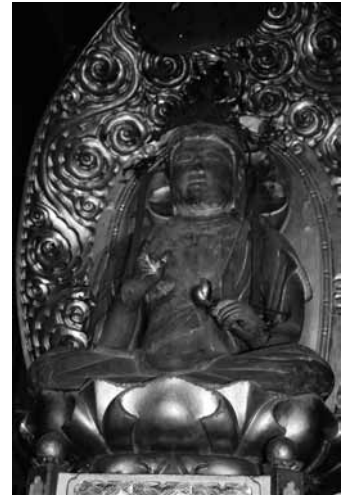
像高は55.8cmで、垂髻（髪を左右に分け後ろに垂らす）をいただき、天冠（高貴な人のつける冠）台下の地髪はマバラ彫りとする。彫眼。右手は腕前に上げて、掌を前にして立て、第一指と第二指を捻ずる。左手はわずかに臂を屈し膝上に出し、掌を伏せて未開の蓮華を執る。条帛（きぬ）をつけ、天衣（天子の衣服）は両肩をおおひ腕に副って垂らす。裳をつけた左足を前にして結跏趺坐（足の甲で左右それぞれ反対側のももを押さえる形の座り方）をする。

本像は檜材の一木造りで、頭、軀の主幹部を豎一材から丸彫りし、両腕は肩と手首で剥ぎつける。膝前は横一材から彫りだし、腹下で軀部に寄せる。地付部は縁を残して浅く削る。鼻先及び両腕、膝前並びに未開蓮華はいずれも後補。当初は彩色していたものと思われるが、すっかり剥落して素木に近い。

垂髪は低く、天冠台はわずかに外方に張り出す。地髪のマバラ彫りの調子も古風。面部は洒落ているが切れ長の目の瞼には膨らみがあり、小鼻の切れも良く、口辺部の形も良い。やや面長の肉付きの美しい丸い形のほおで、胸や腹の肉付きも豊か。

藤原時代末期の特色。膝前は室町時代頃の後補。両腕は更に時代の降る頃の後補と思われる。町内では数少ない藤原仏として重要である。

《周防大島町文化財保護審議会 会長 尾野榮明》



8月17日と18日の2日間、日前の莊嚴寺で「島のなつやすみ2016」という小学生を対象とした合宿が行われました。この企画は島内や近隣、またお盆に帰省した子どもたち100人を対象に島の田舎体験を通じて、島の良さを知ってもらおうことを目的としたものです。島の小学校や島外にPRした所、予想以上の反響で募集後すぐに定員に達するという人気ぶりでした。

合宿では海水浴、きもだめしに流しそうめんとワクワクする夏の体験が目白押しで、子どもたちの元気よさに圧倒されっぱなしでした。一方、ご住職のお話の時間になると騒いでいた子どもたちが真剣な面持ちで話に聞き入り哲学的質問を投げかけるなど、驚かされる場面もあり、普段子どもと接することが少ない私にとって子どもたちの素直さや純粋さに触れられたいい機会になりました。

地域おこし協力隊員 山崎千寿の  
しましまタイムズ  
SHIMASHIMA TIMES

8

周防大島町定住促進協議会  
☎0820(74)1007



▲竹の器を作った後、流しそうめんを楽しむ子どもたち

私には田舎がなく、子どもの頃に祖父母と過ごした夏休みの記憶はありません。しかし、両親が毎年必ず海水浴に連れて行ってくれ、その時の楽しかった思い出は今でも鮮明に覚えています。今回の「島のなつやすみ」の思い出は子どもたちが大人になった時、楽しかった島の記憶として懐かしんでくれることと思います。そのいい思い出のお手伝いが微力ながらもできたことを嬉しく思います。

さて、次回の海掃除は10月29日(土)午後5時から立岩海水浴場で行います。夏で賑わった後の海を一緒にきれいにしませんか？